

熟期が早く、草丈が短いハトムギ新品種「はときらら」

研究のねらい

ハトムギは生育期間が長いため、東北地方では冷害時に成熟期に達しない場合があり、より熟期の早い品種が必要である。また、機械収穫をより効率的に行うためにさらに短稈の品種が求められている。そこで、ハトムギ生産の安定化と省力化を目指し、極早生・極短稈で機械収穫適性の高い品種を育成する。

成果の内容

- ① 「はときらら」の盛岡市における成熟期は「はとじろう」より10日早く、「はとゆたか」より14日早い(表1)。
- ② 「はときらら」の草丈は「はとじろう」より19 cm 短く、「はとゆたか」より28 cm 短い(表1、写真1)。
- ③ 「はときらら」の穀実収量は「はとじろう」と同程度かやや多い(表1、図1)。



はときらら はとじろう
写真1 はときららの草姿

表1 「はときらら」の主要特性

形質	品種名	はときらら	はとじろう (標準)	はとゆたか (比較)
出穂期(月日)		7.18	7.25	7.28
成熟期(月日)		9.20	9.30	10.4
草丈(cm)		174	193	202
穀実収量(kg/a)		44.4	43.1	51.5
対標準比(%)		103	100	119
百粒重(g)		12.2	12.9	13.7

育成地(盛岡市)における2007~2010年の4カ年の平均値。転換畑の直播栽培による成績である。

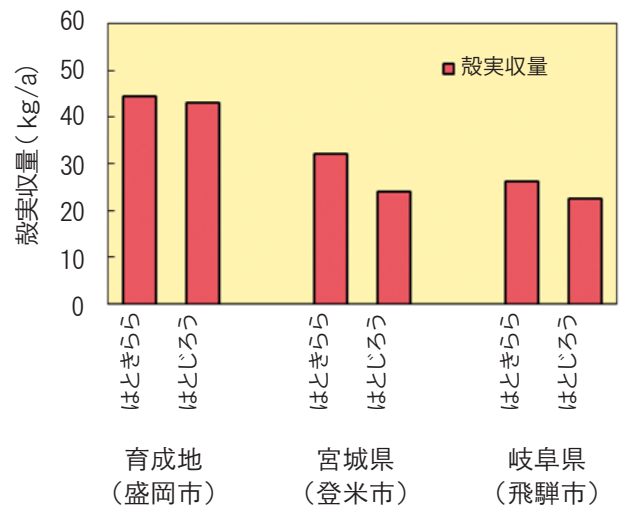


図1 「はときらら」と「はとじろう」の穀実収量
盛岡市は2007~2010年の4カ年、登米市は現地試験2009年の1カ年、飛騨市は現地試験2009~2010年の2カ年の平均値。

成果の利活用

- ① 北海道南部や東北地方、本州高冷地での栽培に適する。
- ② 「はとじろう」と同様に葉枯病にやや弱いため、葉枯病の発生する地帯での栽培には注意する。